

## 令和7年度 学校関係者評価 令和8年度へ向けた改善方策

令和7年度学校関係者評価アンケート結果(5・6年生児童、全学年保護者、地域関係者)、関係者評価委員会からの提言を受け、令和8年度の学校運営に関する改善方策を報告いたします。以下上段は学校関係者評価委員会からの提言、下段(赤字)は、別紙「前年度の改善方策について実行した改善結果」の考察を加味し、改善方策として記載します。

### アンケート結果の特徴より評価委員会提言

#### ○児童の学びについて(各教科・教科「日本語」・キャリア教育・図書・その他の視点)

児童が学ぶことを楽しいと感じているのはひとえに先生方の頑張りのおかげと考えるが、年次の浅い先生の増加、タブレット端末などを使った新しい形の授業への移行など、現在教え方の転換期にあると考えられ、先生方の教え方に関する情報共有などますます盛んにしていただきたい。

教科「日本語」を外国語(活動)で教える時間にすることで将来外国人とのコミュニケーションに役立つのではないかと考える。

保護者による仕事講話など身近な大人の話はキャリアについて自分ごととして考えるきっかけになると考えられ、目標に向けて努力する原動力にもなりうるので、継続していただきたい。

本好きな子供が少ないことは極めて問題と考えられるが、本校に図書室がないことも原因の一つと思われる。

通用門への電子錠の設置など安心・安全への対応も評価できる。

#### ⇒令和8年度へ向けた改善策

5・6年児童「学ぶことが楽しい」R6 85.7%⇒R7 76.8%と評価が 8.9 ポイント下がり、課題が残る点と、保護者「子どもたちは、意欲的に学習に取り組んでいる」R6 82.1%⇒R7 86.0%、児童「自分の生き方や将来のことについて考える授業がある。」 R6 64.7%⇒R7 77.3% 等、改善がみられた点については、より良い方向で継続していく。

#### <学習指導>

○校内研究、OJT 研修、授業観察等で教師の指導力を向上させていく。

○特別活動に関しては、令和8年度の開校70周年に向けての取組を充実させる。その中で、子どもたちの発意・発想を活かし、探究的に協働的に取り組めるようにしていく。

○年3回の学校公開、HP、学級便り、保護者会等で、どんな取組をしているかの情報発信を更にしていく。

○外国語活動の中に、日本の文化(教科日本語で取り扱う内容)を取り入れるカリキュラムマネジメントを行う。

#### <キャリア教育>

○今年度の実績をもとに、令和8年度も交流活動や保護者の協力によるキャリア教育を実施していく。

#### <学校の安全性>

○全校朝会や日々の学級指導での意識を高める指導看護当番等による職員の看護を徹底する。

○経営方針『子どもがいるところには必ず大人がいる。大人がいないところには、子どもはいない。』を厳守

○いじめや不登校等、児童の変化を見逃さず、情報共有し、適切な対応をしていく。

## ○児童のあいさつの態度について

児童の挨拶への思い、保護者の児童の挨拶への評価は高く親近感が持てる。あいさつは本来家庭で教えるものだが、あいさつキャンペーンで保護者や地域の方に指導いただいていることも関係しているのではないかと。

⇒令和8年度へ向けた改善策

- あいさつキャンペーンの充実
  - 「あいさつ・返事・お礼の言葉」の定着
  - 教職員による率先垂範
  - 委員長会議(委員会議)によるあいさつの輪を広げる運動
- ⇒学校だけではなく、保護者、地域の皆様と共に、町全体の挨拶の輪が広がるようにしていく。

## ○読書環境について

本好きな子供が少ないことは先に述べたが、原因の一つとして本校に図書室がないことが考えられる。教室に図書を配置するなど先生方も努力されているが、そもそも図書室がないことが問題である。

他校で魅力的な図書室がつけられているとの情報に接し、学習環境の公平性という観点からも図書室設置を区に働きかけるべきである。

⇒令和8年度へ向けた改善策

- 図書委員会の読書運動の充実
  - 図書の時間、読書タイムの充実
  - 図書司書との連携
  - とどろき絵本の国との連携
  - 絵本のコラボ給食の継続
- 上記の図書に関係する取組に加え、
- ⇒図書館設置へ向けて世田谷区教育委員会と検討していく。
- ⇒家庭の協力も得られるようにしていく。

## ○地域連携

保護者のみならず町会など地域の方々にあいさつキャンペーン、周年行事など学校行事などでご協力いただいている。また、学校からのお知らせなどを通じて学校の様子を多くの地域の方々に理解していただいていることがわかる。地域運営学校のあるべき姿と考えられ、ますますつながりを深めていただきたい。

⇒令和8年度へ向けた改善策

- 学校だよりや学校ホームページ等の充実
- 学校公開、学校行事のご案内を丁寧に行う。
- 学校運営協議会を中心に計画を進め、学校、保護者、地域が一体となって取り組めるようにしていく。

## ○今後の学校の取組について

昨今教育活動としてやるべきことが多くなっているようであるが、新しい取組を広げるより現在やっていることを深掘りした方がいいのではないかと考える。いい教育活動は残しましょうという先生方のご意見で、運動会、学芸的行事、夏休みの水泳教室を縮減せずに行っていることは極めて評価できる。とど活プロジェクトも楽しそうである。また、夏まつりや冬まつりの開催、アドベンチャーイン多摩川への参加などPTAやおやじの会が主体となる行事への協力も児童の様子を見るに継続すべきと考える。

⇒令和8年度へ向けた改善策

- 委員長会議を中心とした組織の運営により、「とど活ハッピープロジェクト」を各種開催できた。今後も子どもたちの発意・発想を活かした主体的な取組を推進していく。高学年がリードし、だれでも取り組める活動が実施できるように支えていく。
- 働き方改革を推進し、行事の実施方法の精選を行う。業務の効率化と均等化を図る。
- 児童の負担感の軽減、働き方改革の観点も考慮して、令和8年度は、「異学年スポーツ交流会」を休止し、70周年記念行事(仮称:児童祭り)等を実施する時数にあてる。
- 令和8年度夏期休業中の水泳教室については、世田谷区全体で中止となった。